

マルボシル[®]ニュース



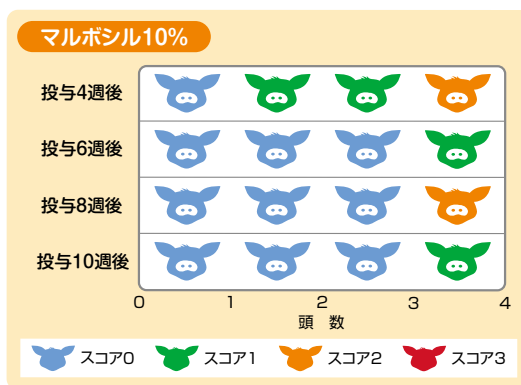
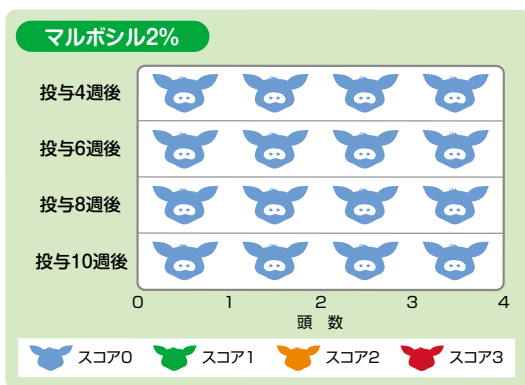
No.1



筋肉内投与部位の局所変性試験

一般に、フルオロキノロン系注射用製剤は、筋肉内投与した場合、投与部位において疼痛・硬結等の局所変性を生じる場合があることが知られています。この変性は、ときに食肉の変性として認められ、流通過程において問題視されることがあります。

そこで、豚にマルボシルを筋肉内投与した後、注射部位における局所変性を経時的に観察したところ、マルボシルは、局所変性が低減された安全性の高い注射剤であることが示されました。



局所変性の例：

スコア0：変性部位は認められない

スコア3：筋組織の出血および顕著な白色化



マルボシル投与4週後



対照薬投与4週後

供試動物及び方法

4頭の子豚（試験開始時体重約30kg）の両肩部及び両臀部4箇所、マルボシルを用法・用量に従い筋肉内に投与し、4、6、8、10週後に投与部位の肉眼及び病理組織学的変化を観察した。

（社内資料）

- 局所変性スコア
- 0：変性部位が認められない
 - 1：変性を認める（変性が白～黄色の線状化したもの又は変性した面積が1cm²未満のもの）
 - 2：変性を顕著に認める（変性した面積が1cm²以上のもの）
 - 3：変性が顕著で褐色変性や壊死を認める（出血を含む）

本剤は、第一次選択薬が無効である症例に限り使用すること。本資料は製品の情報等を提供する資料です。使用の際は製品の添付文書をよくお読みください。

meiji 明治アニマルヘルス株式会社

Marbofloxacin[®]